# 平成30年度 横瀬川ダムモニタリング委員会の審議概要について

平成30年度 横瀬川ダムモニタリング委員会を下記のとおり開催しましたので、その審議概要を公表いたします。

記

**開催日**　平成 31年 2月 27日(水)

**会場**　　四万十市社会福祉センター

**〇目的**

横瀬川ダム建設事業による環境への影響検討結果に基づく環境保全措置の具体的手法の実施、モニタリング調査等に関して事業者へ指導・助言を行うことを目的として開催しております。

**〇審議概要**

**（１）水質（濁水関係調査）**

◆SS 負荷量について、工事中は工事前より高くなっており、本体工事前後で大きな差はない。本体工事以外の原因が考えられる場合、工事後も同様の傾向が続くのか。

⇒　本体工事以外の明確な原因については不明。本体着手前に付替道路工事等を実施しており、それら関連工事に伴う裸地の発生により濁水が発生した可能性がある。

◆工事後も裸地が残る場合、濁りの長期化が懸念されるため、ダム供用後も調査すべき。

⇒　裸地や法面の処理など発生源の対策を行う。試験湛水も含めて濁水の発生状況について調査していきたい。

**（２）生態系典型性：アユを指標**

◆水系の純粋な遡上アユの基準として、四万十川天然遡上アユの Sr/Ca 比を分析をすると良い。

◆アユ以外の回遊型の魚類がどこで確認されているかということも、横瀬川の生態系が海と繋がったものであることを確認できる観点として重要である。

**（３）植物の重要種　・移植した植物　・水田生の植物　・試験湿地の生物相**

◆ツゲモチの鉢上げで、状況が悪ければ挿し木の個体を増やすことも検討すると良い。

◆ヒメノボタンの移植等について三原村の群生地の専門家に協力依頼すると良い。

◆水田生重要種は、保管から移植までのタイムラグをできるだけ短くすることが望ましい。　⇒　タイムラグが最小限となるよう、工事担当と調整を行っていく。

◆創出する湿地は、人が手をかけなければ成功しないので管理作業をしっかりとおこなうこと。　⇒　各委員から助言を得て進めていきたい。

◆湿地の整備完了と同時に速やかに維持管理できるよう、管理予定者と早期に適切な協議を行うこと。　⇒　来年度当初に早急に調整を図っていく。

**（４）生態系上位性：猛禽類（オオタカを指標）**

◆猛禽類や多様な鳥類が生息しており、バードウオッチングや自然観察会に活用できる。
　　⇒　学校と相談して自然環境教育への活用を検討していく。

◆ランクを選定した根拠がわかりにくいもの、繁殖状況が経年変化しているものがある
　　⇒　選定した根拠が明確となるよう、繁殖可能性ランクａの説明に「繁殖（抱卵から巣立ち直後までの何らかの事象）を確認」を加える。サシバの繁殖状況の経年変化について、記載できる考察を報告書に明記するとともに、繁殖ランクの根拠を再整理する。

**（５）動物の重要種：ヤイロチョウ**

◆特になし

**（６）騒音・振動（工事用車両を対象）**

◆特になし

**（７）モニタリング調査結果の評価と対策**

◆水質は、濁水処理プラントの放流水水質ではなく、河川の水質について記載すべきである。⇒　指摘の通りであり、記載を修正する。

◆試験湛水の直前にアカハライモリとトノサマガエルの移植となるが、適切に対応すること。　⇒　状況に応じて仮の池などを造成するなどして事前に対応していきたい。